

# みんなの手で輝く学校づくり

～子どもを想う地域のみなさんとともに～

【山口市 大殿中学校区】

## 地域の概要

大殿地区は山口市のほぼ中心にあり、美しい自然に恵まれた地域です。また、室町時代に大内文化が花開いた地にふさわしく、人間味のある歴史と伝統にあふれています。

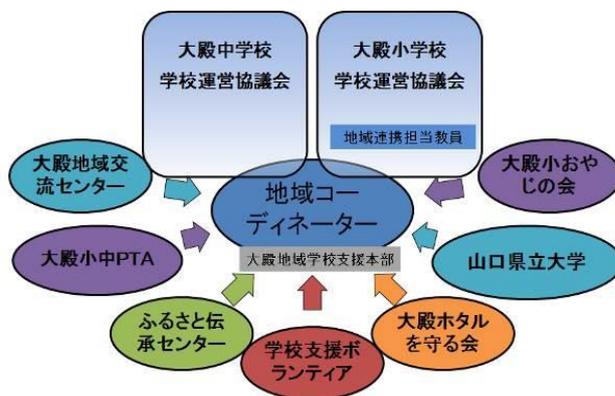
地域には1つの小学校と1つの中学校が所在し、学校教育に対して協力的な住民が多く、専門的な知識や技能をもたれた方も数多く居住され、教育活動を行うには大変恵まれています。

人口	7,775人	
世帯数	3,889世帯	
対象校及び児童生徒数	大殿中学校	275人
	大殿小学校	604人

## 組織の内容

大殿小学校では平成20年度に学校支援地域本部事業を受託することで、教育活動を全面的にバックアップする組織を設置しました。取組の計画は自治会、地域交流センター、地域ボランティア団体、コーディネーター、学校関係者の代表をメンバーとした地域教育協議会で立案し、学校側と調整してきました。大殿小学校がコミュニティ・スクールを導入したことで、大殿地域学校支援本部をその中心となる活動として位置付け、更なる活動の充実・深化を図っています。さらに、大殿中学校がコミュニティ・スクールを導入し小中連携を図る中で、大殿地域協育ネットを構築しているところです。

大殿地域学校支援本部を地域に定着させるための広報活動の実施及びボランティアの募集に努めるとともに、教職員や保護者の理解を十分に図ることに力を入れています。実際に授業や体験活動の場面で有効なボランティア活動が展開できるよう、教職員とのスムーズな連携をめざすために、両校の職員室にコーディネーターの机を配置し、打合わせ会を実施し、活動の充実を図っています。さらに幅広い支援体制を構築するため、関係団体や多くのボランティア組織との連携を進めています。



大殿地域協育ネット

## 特色・重点的な取組

「大殿地域協育ネット」の大きな特色は、コーディネーターの活動にあります。元ホテルマンであるコーディネーターの細やかな気配りによる活動が、新しい事業を生み、ボランティアのやる気を起こさせています。ボランティア登録者数は、平成25年度336名となっていますが、そのほとんどが毎年何らかの活動にかかわることができるよう配慮されています。

さらに、毎年1つは新しい事業を開拓していこうという意欲も見られます。今年度においては、運動会の玉入れ競技の赤白玉をボランティアの手で製作したり、6年生が中学校に進学するにあたってのマナーを学んだりする講座を実施しました。

また、地域の方や中学生ボランティアグループ（OTK）と協働で実施している「夏休み宿題やっつけ大作戦」も、今年度は2回実施し、夏休みの恒例の行事となりつつあります。



夏休み宿題やっつけ大作戦

## 主な活動の紹介

### ○コーディネーターの活動

- ・ 学校支援本部から事業の提案
- ・ ボランティアの募集
- ・ 広報紙「みんなの手で」の発行及び学校ホームページへの掲載
- ・ 学校支援活動の依頼、調整
- ・ ボランティア来校時の対応（送迎と名札作り等）
- ・ 地域情報の提供及び活用

### ○ボランティア活動の内容

- ・ 教科学習への支援  
社会科での歴史探訪、生活科での校外学習支援(安全確保)、  
家庭科でのミシンの使い方指導等
- ・ 総合的な学習の時間への支援  
ホタル飼育のためのカワニナ採り・ホタルの放流・ホタルの  
生態についての指導、ホタルの絵手紙制作、大内人形づくり、  
焼き芋会、留学生との異文化交流、大内文化の学習、鷺流狂  
言教室等
- ・ 特別活動への支援  
山口祇園囃子クラブ、鳳翫山登山見守りボランティア
- ・ 読み聞かせ活動（朝の読み聞かせの会、お話会）
- ・ 環境整備等  
学校環境整備、各種賞状の筆耕、図書室の本の整理及び補修  
地域行事での作品展示準備等

### ○大殿地域学校支援本部の活動内容

- ・ 夏休み宿題やっつけ大作戦、大殿地域給食試食会、マナー向  
上大作戦、玉入れ競技の赤白玉作り



ホタルの絵手紙制作



マナー向上大作戦



赤白玉作り

## 成果と課題

家庭科でのミシン指導の方々が、運動会の玉入れ競技の赤白玉作りも中心となって活動していただいたり、山口祇園囃子クラブの活動では、山口観光コンベンション協会から能管の寄付をいただいたりすることにより、学習活動をより一層充実させることができました。さらには、ホタル育成活動で新たにホタル絵手紙を教えてください方々が来られたり、地域給食試食会では、地域の方同士の交流が広がったりし、それぞれの活動に広がりが見られたことも成果としてあげられます。

しかしながら、この事業に関しての補助金がいつ無くなるかという不安もあります。自主財源をいかに確保していくかということと、すばらしいコーディネーターがいる間に新たな後継者の育成をしていかなければならないことが課題となっています。

今年度末には、小・中合同の学校運営協議会を実施し、大殿地域協育ネットの推進体制の確立を図っているところです。今後は、地域交流センターや地域づくり協議会との連携を一層深め、学校づくりと地域づくりが相乗効果をもたらすような取組を推進していきたいと考えています。

## 今後の取組

今後は、小・中学校の連携を更に深めつつ、地域の人材等、教育力を共有・活用し、地域ぐるみで子どもたちを育てるこれまでの取組に改善を加えながら学校支援を進めていきたいと考えています。

また、教職員に対しても事業の周知を図り、更に理解と協力が得られるよう働きかけていきたいと思っています。